

2011年度 消費者・市民教育モデル事業報告書

－ 消費者教育フェスタの開催 －

社会的責任に関する円卓会議
人を育む基盤の整備WG共同主査

I. 2011年度の取り組み概要

「人を育む基盤の整備ワーキンググループ」では協働プロジェクトの一つとして消費者・市民教育モデル事業の地方展開を掲げるなど、持続可能な社会を担う人材の育成に取り組んでいる。

2011年度は、昨年度のモデル事業(※)に引き続き、文部科学省が主催する「消費者教育フェスタ」を東京、岐阜の2ヶ所で開催し、企業・業界団体、消費者団体等に対して、資料・教材の展示やデモンストレーション授業の実施を呼びかけるなど、企画・実施に協力した。

※ 2010年度の取り組み

消費者・市民教育モデル事業を東京で実施

- ① 日時：2011年2月22日
- ② 場所：文部科学省東館3階講堂
- ③ シンポジウム：テーマ「持続可能な社会を担う人材育成への提言～それぞれの立場から～」
- ④ 模擬授業：消費者団体や事業者など14団体が実施
- ⑤ 資料・教材の展示：37団体が資料・教材を展示
- ⑥ 参加者数：都道府県・教育関係者約190名、各セクター関係者約140名など
約330名が参加

II. 消費者教育フェスタ東京会場の開催概要

- ① 日時：2012年1月18日
- ② 場所：文部科学省東館3階講堂他
- ③ 趣旨：消費者教育に関する連携・協働の先進事例や学校における指導者養成講座などの成果を広く還元するとともに、民間団体や企業などが作成した教材等を教育関係者に紹介することで両者の連携・協力による消費者教育の推進を図る。

④ パネルディスカッション

テーマ：多様な主体の連携・協働による自立した消費者・市民の育成について

コーディネーター：上村協子 東京家政学院大学教授

パネリスト：教育委員会、地方自治体消費者関係部局、事業者、消費者団体関係者

【パネルディスカッション議事要旨】

- ◇各パネリストがそれぞれの立場からの取り組みを紹介。
- ◇教育委員会からは、教員の間での情報共有の取り組みや実際の教科における消費者教育の実践について、地方自治体からは消費者教育の体系の取りまとめについて、事業者からは企業をとりまく潮流や企業が行う啓発活動について、消費者団体からは地域における消費者教育の出前授業について、それぞれ紹介した。
- ◇意見交換では、お互いに情報交換する場が必要だという意見や、それぞれが共同体の一員だという意識をもって、協働の取り組みを行っていくことが重要だという指摘がなされた。

⑤ 資料・教材の展示：以下の 36 企業・団体が協力

消費者関連専門家会議(A C A P)、東京ガス、日本証券業協会、日本損害保険協会、消費者教育支援センター、野村ホールディングス、東芝、金融広報中央委員会、公正取引委員会、国民生活センター、プロミス、経済広報センター、東京海上日動火災保険、ダイキン工業、日本労働組合総連合会、サントリー、第一生命保険、生命保険文化センター、日本自動車工業会、日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会(NACS)、日本弁護士連合会、積水ハウス、花王、カルビー、シャープ、日本フィナンシャル・プランナーズ協会、全国銀行協会、ソフトバンクモバイル／企業教育研究会、早稲田大学環境教育支援プログラム／企業教育研究会、全国消費生活相談員協会、日本生活協同組合連合会、「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議(ESD-J)、金融庁、環境省、消費者庁、神戸市

⑥ 参加者数：199 人

Ⅲ. 消費者教育フェスタ岐阜会場開催概要

① 日時：2012 年 2 月 22 日、23 日

② 場所：岐阜市立長良東小学校、岐阜市立東長良中学校他

③ 趣旨：小中学校において親子で学ぶ消費者教育の実践を広く公開するとともに、地域で消費者教育を推進する学校教育、社会教育、消費者担当部局や、消費者団体、企業等様々な関係者が一堂に会して、地域における協働・連携による消費者教育推進のきっかけづくりを目指す。

④ シンポジウム

テーマ：地域社会における消費者教育 ～連携・協働をテーマに生まれるもの～

コーディネーター：西村隆男横浜国立大学教授

パネリスト：学校関係者、専門家、事業者、消費者団体関係者

⑤ デモンストレーション授業：以下の 32 企業・団体が生徒と保護者に対して授業を行った。

<小学校>

第 4 学年：東芝、シャープ、東京海上日動火災保険、カルビー

第 5 学年：生活協同組合コープぎふ、積水ハウス、岐阜新聞社

第 6 学年：岐阜県県民生活相談センター、中部電力、朝日新聞社、十六銀行

<中学校>

第 1 学年：岐阜県金融広報委員会、製品評価技術基盤機構 (NITE)、パナソニック、毎日新聞社、国民生活センター、消費者関連専門家会議 (ACAP) / プロミス、ソフトバンクモバイル / 企業教育研究会

第 2 学年：消費者教育支援センター、大垣共立銀行、KDDI、読売新聞社、日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 (NACS)、第一生命保険、早稲田環境教育推進機構 / 企業教育研究会

第 3 学年：岐阜県司法書士会、岐阜市消費生活センター、中日新聞社、生命保険文化センター、全国銀行協会、花王、公正取引委員会

⑥ 資料・教材の展示：以下の 38 企業・団体が実施

金融広報中央委員会 / 岐阜県金融広報委員会、公正取引委員会、国民生活センター、製品評価技術基盤機構 (NITE)、経済広報センター、生命保険文化センター、消費者関連専門家会議 (ACAP)、日本証券業協会、日本損害保険協会、消費者教育支援センター、日本生活協同組合連合会、生活協同組合コープぎふ、日本自動車工業会 / トヨタ自動車、岐阜県県民生活相談センター / 岐阜県環境生活政策課、岐阜市消費生活センター、全国銀行協会、日本弁護士連合会、日本労働組合総連合会、岐阜県司法書士会、「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議 (ESD-J)、野村ホールディングス、東芝、ダイキン工業、第一生命保険、シャープ、プロミス、カルビー、中部電力、サントリー、積水ハウス、岐阜新聞社、朝日新聞社、読売新聞社、ソフトバンクモバイル / 企業教育研究会、早稲田環境教育推進機構 / 企業教育研究会、環境省、金融庁、消費者庁

⑦ 参加者数：2 日間で延べ 1027 人 (児童・生徒、保護者、模擬授業実施者等も含む)

IV. 「消費者教育フェスタ in ぎふ」の様相

1. 第1日目（2月22日）

【第1日目（2月22日）のプログラム】

場所：（2月22日）岐阜市立長良東小学校、岐阜市立東長良中学校

【長良東小学校】		【東長良中学校】
	13:00	【消費者教育授業公開】
【消費者教育授業公開】	13:20	
	14:00	
	14:15	【消費者教育ワークショップ】 ＜21の企業・団体によるデモン ストレーション授業＞
14:20		
14:30		
【消費者教育ワークショップ】 ＜11の企業・団体によるデモン ストレーション授業＞	14:30	
移動・休憩	15:15	移動・休憩
	15:30	児童生徒による発表
	15:45	講評 国立教育政策研究所 樋口雅夫 教育課程調査官
		講演 「かしこい消費者になるために ～身近な生活談義～」 三瀬 顕 弁護士(元NHK『生活笑百科』コメンテーター)

【消費者教育に関する教材・資料の展示（38の企業・団体）】

13:00～17:00

東長良中学校体育館

(1) 消費者教育授業公開

教員による消費者教育等の公開授業を実施。

【公開授業内容一覧】

◆小学校（13：20～14：20）			
【教科等】	【学級】	【場所】	【学習内容】
生活	1年1組	音楽室・ 北舎2階	「おつかい名人になろう」 ～親子で「おつかいすごろく」を行い、楽しみながらよりよい消費生活について学びます。～
道徳	3年1組	3年1組 教室・ 南舎3階	1－（1）節度ある生活 ～物や金銭を大切にするなど、節度ある生活を送るという点から自分を見つめ、自分の改定生活について親子で話し合います。～
家庭	5年1組	体育館	「我が家の買い物を見つめて」 ～親子で我が家の買い物のよい点と課題を見つめ、よりよい買い物の仕方について話し合います。～
学級活動	6年3組	体育館	「風評被害について考える」 ～東日本大震災による農産物の風評被害について、親子で話し合い、一消費者として何ができるかを考えます。～
◆中学校（13：00～14：00）			
学級活動	1年2組	1年2組 教室・ 南舎1階	「園芸活動の経費を有効に活用するために」 ～話し合い活動を通して、園芸活動の経費を最大限に活用し、有効に使用して、活動を充実する方法やアイデアを探ります。～
学級活動	1年5組	1年5組 教室・	「インターネットを賢く使える消費者になろう」 ～話し合い活動を通じて、ネット社会の世の中を賢

		南舎 2階	く生きるための方法について自分たちは何ができるのかを考えます。～
技術・家庭	2年2組	被服室・ 北舎3階	「商品の選択と購入」 ～親子で商品の情報を様々な視点から見つめ、商品のよりよい選択について学びます。～
社会	3年1組	3年1組 教室・ 北舎2階	「わたしたちの暮らしと経済」 ～自立した消費者を目指し、消費者保護の問題について話し合います。～

【教員による消費者教育授業公開の様様】



(2) 消費者教育ワークショップ

～各種企業・団体によるデモンストレーション授業～

◇企業・行政・消費者団体など 32 団体が小中学生・保護者を対象にデモンストレーション授業を実施。

【各企業・団体によるデモンストレーション授業の概要】

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
東芝	小学校第4学年	理科実験室
【授業概要】		【授業風景】
<p>「ペーパータオルテスト」</p> <p>数種類のペーパータオルを素材に、吸収力や湿潤強度(濡れたときの強さ)の実験や、価格/価値の観点から、消費者としてどのペーパータオルを選択すべきかを、実験や体験を通じて考えていきます。このワークショップは、アメリカのUCバークレー校で開発された GEMS という体験型の理数教育プログラムのひとつであり、東芝が支援する NPO 法人体験型科学教育研究所(リアルサイエンス)と協働で行います。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
シャープ	小学校第4学年	4-2 教室
【授業概要】		【授業風景】
<p>「地球を守る環境教室(地球温暖化と新エネルギー)」</p> <p>シャープ社員と気象キャスターが、地球温暖化とその解決方法について、気象の知識やデータ、ソーラーパネルのセルの実物や発電実験などを用い、それぞれの専門性を活かした環境授業を行います。児童が積極的に参加できる理科実験やクイズ等を取り入れ、双方向性高く子どもたちの興味を高める工夫を行い、また、学習指導要領に沿った内容とすることで、学習の促進はもちろん、職業観の醸成にもつなげます。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
東京海上日動火災保険	小学校第4学年	4-3教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「みどりの授業～マングローブ物語～」</p> <p>「マングローブ」というユニークな特性をもつ植物を題材とし、「地球温暖化防止」・「生物多様性」について学習した上で生徒一人ひとりが地球環境を守るために何ができるか話し合う授業です。当社は、1999年から東南アジアでマングローブの植林を実施しており、授業の題材にはマングローブの写真や映像を用い、本物の種に触れてもらうほか、植林活動に参加した社員が体験談を語りマングローブの具体的なイメージをつかんでもらえるようにしています。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
カルビー	小学校第4学年	4-4教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「カルビースナックスクール」</p> <p>子どもの身近なおやつから、大切な「食」を考えます。授業を通じて、「楽しい食生活」について学び、実際に行動する力を培います。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
積水ハウス	小学校第5学年	家庭科室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「キャプテンアースの『いえエコロジー』セミナー」</p> <p>実験や予想などの「体験」と「ゲーム性」を取り入れながら、地球温暖化と暮らしとの関わりを学び、「住宅」という暮らしの中にある身近な題材をもとに「エコな暮らし方」の理解と、「子どもたち自らのアクション」を促します。子どもたちの主体性を重視し、「気付き」や「発見」の楽しさから「理科離れ」を解消していくものです。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
生活協同組合コープぎふ	小学校第5学年	5-2教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「フードバランス(豆を食べてマメにくらそう!)」</p> <p>食べること、とくにバランスよく食べることの大切さを学びます。大豆に焦点を当てて大豆製品の例を取り上げ、大豆のパワー、栄養効用などを学びます。朝食を例にして献立を考え、バランスよく食べることを学びます。数人ずつのグループワークとして実施します。</p>		
		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
岐阜新聞社	小学校第5学年	5-3教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「情報をいろいろな視点から～新聞記事を読み解こう!～」</p> <p>「情報」ってなんだろうーを考える。情報は発信者の意図によって表現の仕方が違うことを知り、情報を複眼的、多面的に捉える意識をもてるよう導きます。具体的な教材として、新聞記事を使用し、甲子園球場で行われる全国高校野球大会の1試合を取り上げ、地元のチームの試合を双方の地元新聞はどのように報じたかを見ていき、見出しや内容の違いを確かめていきます。一つの情報で物事を決め付けたり、評価をしてしまわないー引いては消費行動に慎重に考えられる子を育みます。</p>		
		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
岐阜県県民生活相談センター	小学校第6学年	6-1教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「身につけよう!けいやくの知識」</p> <p>大人であっても振り込め詐欺、架空請求、悪質商法などに騙されて、毎日のようにセンターへ相談を寄せてきます。このようなトラブルから身を守るには小さな頃から、消費生活に関する知恵を身につけておくことが大切です。この講座では、クイズや啓発パネルを使った講話を通じて、児童にも分かりやすく“けいやく”の大切さを教え、児童を取り巻く消費者トラブルの実例を紹介し、それらの対処法や留意点を一緒に考えます。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
中部電力	小学校第6学年	6-2教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「環境エネルギー教室Ⅱ 身近なエコライフ (シロクマ家族のエコエコライフ)」</p> <p>地球温暖化を防ぐために自分たちが無理なくできることを、ビデオ学習とワークシート学習を通してシロクマ家族と探します。「ムダ使い」と「かしこく使う」の区別を意識しながら、身近なエコライフを一緒に考えます。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
朝日新聞社	小学校第6学年	6-3教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「新聞って、読んだことある?」</p> <p>新聞って、ニュースを伝えるものだよね。英語で言うと、Newspaper(記事が書いてある紙)。でもよく見て。最近の新聞にはカラーのきれいなページもあるよ。いろんな会社の売っている品物や、会社自体のことを知らせる広告面だ。朝日新聞は日本を代表する新聞社。記事の正しさにも定評があるけれど、商品やサービスを紹介する広告でも、厳しい審査をした上で新聞にのせているんだよ。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
十六銀行	小学校第6学年	6-4教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「お金はじょうずに使おう！」</p> <p>児童との対話を通じて、「お金の役割」や「お金を得るには労働が必要なこと」、「お金のじょうずな使い方」、「幸せに暮らすためにはお金が必要だが、それ自体が一番大切なものではないこと」などを見童自身が考えながら学習していきます。ジュラルミン製のケースに入った模擬紙幣1億円を使って、大封(1千万円)に触れる体験学習も行います。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
岐阜県金融広報委員会	中学校第1学年	1-1教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「大人になっても困らないお金との付き合い方」</p> <p>お金の意味、お金はなんのために必要か、お金の大切さをワークショップ形式で深めていきます。生徒たちが、将来幸せに暮らすためにお金とどう向き合うかを扱っています。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
製品評価技術基盤機構(NITE)	中学校第1学年	1-2教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「くらしに潜む危険から身を守るために」</p> <p>製品評価技術基盤機構が、これまで収集調査した事故情報について分析したところ、製品に関わる事故は、設計ミスや製造不良など、製品自体が原因で発生する事故だけでなく、使用者の誤った使い方(誤使用)や不注意によって起こる事故が多く発生していることがわかりました。</p> <p>誤使用や不注意が原因となって起こる事故の背景には、製品の安全性に対する過信や危険性への意識の低さがあるのではないのでしょうか。私たちが普段何気なく使用している製品にも同じような危険が潜んでいることを今一度思い出してみましょう。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
パナソニック	中学校第1学年	第2理科室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「エコ・モノ語(えこものがたり)」</p> <p>「エコ・モノ語(がたり)」は、小学校5年生の社会科単元「工業生産を支える人たち」と、中学校の公民に連動し、生活に身近な家電製品をテーマに、モノづくりを支える人々の役割や、環境への努力、工夫について体系的に学ぶことをねらいとしています。また、キャリア教育の視点からは、モノづくりを支える様々な役割の人々の連携により仕事が成り立っていることや、開発の苦労話、自分や仲間を信じて努力を積み重ねることの大切さを伝えています。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
毎日新聞社	中学校第1学年	1-3教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「巨大地震が起きたとき、いかに生き延びるか～科学記者として最前線の地震研究を取材して～」</p> <p>昨年3月の東日本大震災からまもなく1年となります。震災以後、防災への関心は高まり、連日のように最新の研究成果が発表されています。東海地震の予知は本当にできるのか。実際に巨大地震が起きたときはどのように対処したらよいのか。地震のメカニズムを理解しながら、そのときへの対応を一緒に考えます。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
国民生活センター	中学校第1学年	1-4教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「契約って、なんだろう？」</p> <p>「契約」とは何か、「契約」はなぜ守らなければならないのか、「契約」をやめたいときはどうすればよいか、といった、「契約の基礎」を日常生活の身近な例から学びます。また、「アダルトサイトの請求画面が消えない!」、「無料のオンラインゲームと思ったのに、料金を請求された!」など、中学生が巻き込まれやすいインターネットトラブルの事例などをもとに、トラブルに遭ってしまったときの対処方法やトラブルに遭わないためにはどうしたらよいか理解します。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
消費者関連専門家会議(ACAP)・プロミス	中学校第1学年	1-5教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「カードゲーム『お金の役割』」</p> <p>JCFA(日本消費者金融協会)が製作している金銭教育教材の「カードゲーム/お金の役割」を使用して、「物々交換の時代」と「物品貨幣の時代」を体験します。さらに道具としてのお金の役割である「物を交換する」「価値をあらわす」「価値を蓄える」ことについて、カードゲームを通して楽しみながら学ぶことができます。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
ソフトバンクモバイル・企業教育研究会	中学校第1学年	1-6教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「考えよう、ケータイ」</p> <p>NHKの『ケータイ・ネット社会の落とし穴 Vol.3 ブログ社会の落とし穴』第1話「ブログと個人情報～「日常」が「情報」に変わるとき～」を視聴し、インターネット上へ個人情報等を公開したり、書き込みしたりすることによるトラブルを取り上げ、不特定多数の人に見られるサイトへの情報発信に対する意識をもたせます。約10分の映像教材では、ブログに個人情報を公開し続けた中学生が現実社会でトラブルに巻き込まれてしまう様子を描いています。こうした映像教材から、情報発信に対する意識をもたせ、情報発信のあり方について考えます。</p>		
		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
消費者教育支援センター	中学校第2学年	2-1教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「ゲームとロールプレイングで学ぶ契約トラブル」</p> <p>訪問販売や通信販売でどうして契約トラブルが生じるのか、販売勧誘に対してどう対処・対策をとったらよいのかについて、様々な契約トラブルの事例を扱った「悪質商法対策ゲーム」や「ロールプレイング」を使って理解を図ります。悪質商法の名前やだましの手口を覚えるというだけでなく、契約の基本と契約トラブルの背景にある消費者と事業者との情報。交渉力の格差を知り、販売勧誘の断り方、情報通信の適切な利用法、消費生活センターなどの相談機関の活用法を学びます。</p>		
		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
大垣共立銀行	中学校第2学年	2-2教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「お金はどこからやって来るんだろう?」「貯金したお金はどこへ行くんだろう?」 ご両親の職業についてなど、生徒自身の身近な大人のしごとを「お金やモノの流れ」。「お金がもらえる仕組み」などの、経済活動の概要について図解を交えて学んでいくことにより、「しごとへの理解」、「お金を得ることの難しさ、大切さ」を伝えていきます。様々な職業について学び、その中で「お金の流れの橋渡し」の役目をしている銀行などの金融について触れ、「貯金の大切さ」、「貯金の行き先」などを学んでいきます。</p>		
		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
KDDI	中学校第2学年	2-3教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「KDDI ケータイ教室」 ケータイを利用する上で、必要な情報判断の重要性を理解し、トラブルの被害者にも加害者にもならないためのルールや責任について学びます。</p>		
		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
読売新聞社	中学校第2学年	2-4教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「情報社会を歩くコツ～メディアリテラシー～」 テレビにラジオに雑誌、インターネット、そして新聞。私たちの周りには多くの情報源があります。何かの情報がほしいとき、皆さんはどうやって調べていますか?「ちょっと知りたいだけ」というときもあれば、「もっと深く調べたい」というときもあるでしょう。各メディアの利点と欠点、便利な点と不便な点などを一緒に考えながら、効率よく、正しい情報を集めるコツを学びましょう。簡単なレクリエーションを通じ、新聞の読み方を知ってもらえたら、と思っています。</p>		
		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会(NACS)	中学校第2学年	2-5教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「身のまわりのリスクについて考えよう」</p> <p>身のまわりのリスクについて、「100%の安全は不可能であること」を理解することを目的とします。講師からリスクについて簡単に説明し、視覚的なイメージを得るため製品事故のDVDを視聴し、グループ毎に話し合っ、「生活シーン図」からリスクを見つけ出します。テーマを決め、各自ワークシートを記入した上で、リスクを減らすためにどうすればよいかグループ内で意見を出し合い、各グループで話し合った内容をそれぞれ発表します。最後に講座全体を振り返り、リスクについて話し合うことの大切さを認識します。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
早稲田環境教育推進機構・企業教育研究会	中学校第2学年	被服室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「節電を科学しよう！」</p> <p>この冬も節電が社会的に求められています。電化製品の中でこういった機器が電力を大量に消費するのか、自転車発電の実験で体感します。その後、電力をあまり使うことなく、暖かく過ごすためにどうしたらよいか、考えます。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
第一生命保険	中学校第2学年	第2音楽室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「ライフサイクルゲームⅡ」で未来を体験！～ライフプランについて考えてみよう～</p> <p>すごろく形式の「ライフサイクルゲームⅡ～生涯設計のススメ～」を4名程度のグループで実施し、年代ごとのライフイベント、各年代で発生しうるリスク、それに対する備え、また消費者として知っておくべき消費生活に関する知識などを楽しみながら学べるようにします。ゲーム終了後は、ゲームで体験したことを踏まえ、これからの人生を考えるためのライフプラン表の作成を時間の許す範囲で行う予定です。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
岐阜県司法書士会	中学校第3学年	3-1教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「これから社会へ出る皆さんへ」</p> <p>すごく身近なことなのに、法律というとなかなか難しいことと思われがちな法律。進学するにせよ就職するにせよ、非常に密接な関わりのある法律について身近な内容から感じてもらい、基本的なことを知ってもらいます。具体的には、契約とは、お金のしくみ、働くときの法律。そして、若干は司法書士という仕事について知ってもらいたいです。具体的な事例を通じて、クイズなどを織り交ぜながらざっくばらんに話をし、法律とは難しくないんだ!知らないと損するんだ!ってことを知っていただければ幸いです。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
岐阜市消費生活センター	中学校第3学年	3-2教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「契約を知ろう!クーリング・オフを使いこなそう!」</p> <p>消費生活センターでの実際の相談事例をもとに契約の説明をし、また、ロールプレイングなどにより臨場感を出しながら、生徒が契約やクーリング・オフを実生活中で活用できるようにします。生徒の情報活動(収集・蓄積・活用・発信)を重視しつつ、中学校のカリキュラムに即した学習指導案を提示したうえで、消費生活相談員が協働して授業を行うことにより、消費者教育の理論と実践の架け橋となる授業を実施しています。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
中日新聞社	中学校第3学年	3-3教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「情報って何だろう ～福島県の取材経験から～」</p> <p>消費者＝情報の受け手と解釈し、「正しい情報を見極める」をテーマとします。昨年9月に福島県南相馬市で、住民による除染活動に参加・取材をした経験から、原発事故や放射能について正しい情報がなかなか得られない住民の苦悩や、記者の感じたこととお話し、子どもたちに少しでも情報について考えてもらえたらと思います。</p>		
		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
生命保険文化センター	中学校第3学年	3-4教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「保険の役割と仕組み」</p> <p>交通事故や長期入院など私たちが社会生活を送るうえで様々なリスクがあり、それによって経済的な不利益や損失が発生することがあります。事前にそれらに備える方法の一つが「保険」であることを示します。「保険」は確率を使用した科学的・合理的な仕組みであることを簡単な数学の問題を解くことで学び、その応用として生命保険の役割や仕組みをやさしく解説します。特に保険と預貯金との違いを理解します。</p>		
		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
全国銀行協会	中学校第3学年	3-5教室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「カードゲームで生活設計を体験してみよう！」</p> <p>「収入」「基本生活支出」「結婚・子育て」「住居」などのカードを引いていくことで、人生には様々な選択があることに気づき、計画性をもって生活していく必要があることを体感するカードゲームです。班ごとにカードを引き、シートに記入を行うグループワークです。途中や最後に各班の結果を発表してもらい、収入と支出のバランスの大切さなどについて振り返りを行います。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
花王	中学校第3学年	第一理科室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「生活と地球環境との新たな“調和”をめざすモノづくり」</p> <p>身近な衣料用洗剤を事例に、商品と作る時の原料の調達から商品の廃棄までのCO₂の排出量がコンパクト化で減っていることを学びます。さらなる環境への取組として、洗濯すすぎ時の節水を可能にした技術を「洗濯の流れ」「界面活性剤の役割」「新技術の内容」の順に学び、2人一組の実験でこの技術を体験します。授業を通して商品を「使う、捨てる」場面でのCO₂削減は自分たちの役割であることを気付いてもらいます。</p>		

【企業・団体名】	【実施学年】	【教室】
公正取引委員会	中学校第3学年	美術室
【授業概要】	【授業風景】	
<p>「わたしたちの暮らしと市場経済(独占禁止法教室)」</p> <p>社長になってライバル会社との競争方法を考え、競争の必要性を学ぶ参加型シュミレーションゲームを行うとともに、学習指導要領に準拠して作成した副教材や身近な事例などを用いて、市場経済や競争について分かりやすく説明します。また、講師と生徒が一緒になって、立入検査や事情聴取の様子を再現します。</p>		

(3) 児童生徒による発表

東長良中学校生徒による合唱発表

【児童生徒による発表の様様】



(4) 講評

国立教育政策研究所 樋口雅夫教育課程調査官

(5) 講演「かしこい消費者になるために ～身近な生活談義～」

三瀬 顕 弁護士（元NHK『生活笑百科』コメンテーター）

【講演の様様】



(6) 消費者教育に関する教材・資料の展示

◇38 の企業・団体が教材・資料の展示に協力。

【教材・資料の展示 実施団体一覧(50音順)】

朝日新聞社	生命保険文化センター
カルビー	製品評価技術基盤機構(NITE)
環境省	積水ハウス
金融広報中央委員会／岐阜県金融広報委員会	全国銀行協会
金融庁	ソフトバンクモバイル／企業教育研究会
岐阜県県民生活相談センター／岐阜県環境生活政策課	日本証券業協会
岐阜県司法書士会	日本自動車工業会／トヨタ自動車
岐阜市消費生活センター	日本生活協同組合連合会
岐阜新聞社	日本損害保険協会
経済広報センター	日本弁護士連合会
公正取引委員会	日本労働組合総連合会
国民生活センター	ダイキン工業
サントリー	第一生命保険
シャープ	中部電力
消費者関連専門家会議(ACAP)	東芝
消費者教育支援センター	野村ホールディングス
消費者庁	プロミス
「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)	読売新聞社
生活協同組合コープぎふ	早稲田環境教育推進機構／企業教育研究会

【消費者教育に関する教材・資料の展示の様様】



2. 第2日目（2月23日）

【第2日目（2月23日）のプログラム】

場所：ホテルグランヴェール岐山 2階 カルチャーホール

(1) 挨拶 9：30～9：40

文部科学省 合田生涯学習政策局長
岐阜県教育委員会 松川教育長

(2) 事例報告 9：40～10：00

- ① 「親子で学ぶ消費者教育の取組について」
- ② 「学校と消費生活センターの連携・協力」

(3) シンポジウム 10：15～11：45

「地域社会における消費者教育 ～ 連携・協働をテーマに生まれるもの～」

コーディネーター：西村 隆男 横浜国立大学教授

パネリスト：高橋 忠明 岐阜市立東長良中学校長

大藪 千穂 岐阜大学教授

堀間 繁則 消費者関連専門家会議（ACAP）中部地区部会長

柴田 博子 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会（NACS）中部支部長

(1) 挨拶

文部科学省合田生涯学習政策局長および岐阜県教育委員会松川教育長より、関係者への御礼や、今後の取り組み等につき挨拶を行った。

(2) 事例報告

① 「親子で学ぶ消費者教育の取組について」

文部科学省 工藤生涯学習政策局男女共同参画学習課消費者教育推進係長より、平成23年度の文部科学省の「親子で学ぶ消費者教育の取組について」説明し、教材やイベントの開催状況について報告した。

② 「学校と消費生活センターの連携・協力」

岐阜市消費生活センター花井消費生活相談員、岐阜市青山中学校神山教諭、岐阜市加納中学校松原教諭より、岐阜市消費生活センターと学校との連携の状況、岐阜市消費生活センターからの出前授業の実施状況、出前授業の充実のための取り組みにつき、説明があった。

(3) シンポジウム

「地域社会における消費者教育 ～ 連携・協働をテーマに生まれるもの ～」

コーディネーター：西村 隆男 横浜国立大学教授

パネリスト：高橋 忠明 岐阜市立東長良中学校長

大藪 千穂 岐阜大学教授

堀間 繁則 消費者関連専門家会議(ACAP) 中部地区部会長

柴田 博子 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会(NACS) 中部支部長

【シンポジウム議事要旨】

- ◇コーディネーターより冒頭、昨日の教員による公開授業、企業・団体によるデモンストレーション授業について振り返った後、今回のシンポジウムの位置づけ、社会的責任に関する円卓会議の概要につき説明を行った。
- ◇各パネリストよりそれぞれの取り組みを紹介。それぞれ他のセクターとの連携・協働や、消費者教育への取り組みについて報告を行った。
- ◇会場からは、「消費者教育の重要性は認識しているが、限られた授業時間のなかでは難しい」という意見があった。それに対しては、単なる被害防止に止まらない生きる力やキャリアプランニングなどを含んだ消費者教育を実施していくことが重要だという意見や、保護者・家庭との連携が重要だという意見が出された。
- ◇コーディネーターによる今回の総括として、①実際に連携はかなり進んでいるため、連携を一般化し、全国に広げていくことが重要であり、誰がコーディネーターとなるのが今後の課題であること、②あらゆる主体が社会に対して果たす役割を感じ、どうしたらよりよい社会が実現できるのか考え活動することが重要であることが指摘された。

【シンポジウムの模様】



以上